

概 要 報 告

実施期日	8月2日(水)
部 会 名	中学校 技術・家庭(家庭分野) 部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う授業の研究』

提案概要

提案校では生徒が自己肯定感をもち、安心して学ぶことができる学校を目標に、全職員で「めざす生徒像」を意識して教育活動に取り組んできた。令和4年度には「学びの質を高める授業づくり～各教科、各学級における目指す生徒像を見据えて～」を研究テーマに設定し、学校全体で授業改善を行った。

その中で家庭科では何ができるか、家庭科における学びの質を高める授業とは何かについて考えたところ、「体験的な実践・実習」「他者との意見交流」「学習意欲が高まる内容や題材」の必要性があがった。そこで今回の研究では「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」という角度で授業展開を工夫しようと考えた。

「実践の概要」

1. 本実践の題材

題材は「身近な衣服の製作を通して持続可能な衣生活を考えよう」とし、第一学年で実施した。また、学習指導要領については「B衣食住の生活」の(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」の(ア)(イ)と関連を図り、布を用いた作品の製作を通して、衣生活の側面から「持続可能な社会の構築」について考えられるよう計画を立てた。

2. 本実践の流れ

- ・製作計画 裁断・ポケット付け(4時間)
- ・縫い方を考える(1時間)・・・研究授業①
- ・また下・すそ・また上縫い(7時間)
- ・ウエスト・ゴム通し(1時間)
- ・製作振り返り 評価(1時間)
- ・衣服の活用(1時間)
- ・衣服の購入と選択(1時間)・・・研究授業②

生徒は小学校の時に直線縫いによる作品製作を体験している。今回は平面の布でも、切り方や曲線で縫い合わせることで身体に沿った立体構造になることに気がつく経験をして欲しいと考え、ハーフパンツを製作した。

生徒が主体的に取り組むことをめざし最後には環境への配慮の視点から、より良い衣服の選択へとつながるような授業展開を設定した。

(研究授業①) 目標「ハーフパンツの組み立てを工夫し、縫い方を工夫できる」

ここではハーフパンツの縫い方を教師が教え、実践するのではなく、縫い方を生徒自身が考えることができる展開にした。導入では2枚の布を体に巻き付け、どのように合わせるとハーフパンツの形ができるのか、意見交換をしながら活動し思考を深めた。また、巻き付けた布を洗濯ばさみ等で仮留めしても、体を動かすことによって取れてしまうことから、製作時にしっかりと縫う必要がある部分に気がつくことができ、生徒の思考が深まったと感じた。次に「丈夫にするためにはどうすればいいか」という発問をし、生徒から工夫点を引き出した上で、二度縫いを紹介し、次時へとつなげた。成果としては、布を体に合わせ、パーツの組み立てを予想し、その後に縫い方について発問することで、生徒が主体的に授業に参加し、より深く考える姿が見られた。また、なぜこの縫

い方が必要なのか、その理由を明確につかむことができたと考える。

(研究授業②) 目標「長く使える衣服を選ぶためには、どうすればよいかを考え、説明できる」

ここではより良い衣服の選択をテーマに、題材のまとめの部分として展開した。導入は製作したハーフパンツの良いところを考え、意見交換を行った。製作に費やした時間を考えると、完成した喜びや愛着など、既製服ではあまり感じたことがない温かみを感じる様子も見られた。次に「長く着られる衣服を選ぶためには」という発問をし、ロイロノートのYチャートを使って思考の整理を行った。生徒がまとめをする際は、合理的配慮やUDの視点から、ワークシートを紙とタブレットのどちらにするか生徒自身が選択し取り組むようにする必要性を感じた。成果としては、生徒が既習内容と今回の活動をつなげて考え、学びを深めることができた。

質疑応答

今回の提案に対する質疑はなかった。

協議の柱及び協議・概要

小中混合で4人ずつ15グループに分かれ協議を行った。

【協議の柱】

題材計画の工夫 ～つながりをキーワードに～

・家庭科内で ・教科と教科で ・小中の内容で

- ・消費者教育は様々な家庭科内の分野とつなげることができる。また、社会や数学等の他教科や総合的な学習、SDGs、キャリア教育等につなげ横断的な学習に発展させることも可能である。
- ・題材によっては家庭の協力が必要であるが、家庭の事情やプライバシーの面で難しいこともある。
- ・学校行事とのつながりを考え、行事に合わせて学習内容を入れ替え、学びを深めている。
- ・今後、組織として小中の部会をひとつにしてみてもという意見もあった。
- ・特に中学校では授業時数が足りないと聞くので、小学校で基本をきちんと教え、中学校の学びにつなげたいと感じた。一方で基礎縫いでは学びを定着させたいが、現状、授業時数や人手の面で難しい。
- ・情報交換の中で、献立作成や調理方法の学習において小中の学習につながりを感じた。
- ・作品製作の授業において小学校はキットを使用していることが多いため、この題材に関して思考、判断の部分を中学校にお願いしている現状があるという意見も出た。
- ・小中連携が大切であると感じた。小学校での学習内容や現状について初めて知ることもあった。知るにより中学校での授業内容も工夫できる。
- ・場合によっては保護者や地域とつながり、手を借りる工夫ができれば良いと思う。

まとめ概要

本実践において、改めて学習のねらいに沿った題材や発問、学習方法の検討が生徒の深い学びに大きく関わることがわかった。また、題材を効果的に組み合わせることはもちろん、他教科や行事とのつながり、小学校とのつながり、家庭や地域とのつながりを考え授業改善を行うことで、生徒の興味、関心が広がり、既習内容とつなげて整理できるなど、知識の定着も期待できる。子どもたちがこれからの自分たちの生活を自ら工夫し、よりよくしようと創造することができるよう今後も授業改善を継続したい。

○助言の指導主事から

- ・子どもたちが見方、考え方を働かせられるよう授業改善を行うことが大切であり、そのために発問や指導の工夫を図る必要がある。
- ・目の前の子どもたちのために、思いや願いをこめた授業をぜひ行ってほしい。家庭科は、子どもたちがいろいろな教科とのつながりを考え、ワクワクして学ぶことができる面白さがあるので、題材の構成や指導計画の作成などの工夫を行いたい。